

「箭島裕治 eBASS 塾」開講にあたって

現在、エレクトリック・ベースを始めようとする方々が入手できるベース関連の出版物には、その殆どに TAB 譜という数字の楽譜が五線に併記されています。TAB 譜がないものと言えば輸入楽譜やジャズを扱う教則本等に限られ、逆に初心者向けのものには TAB 譜しか書かれていないものまであります。

この状況は、振り返ってみると私がベースを始めた 25 年前とほぼ変わっていません。私が最初に手に入れたカシオペアのバンドスコアも当然のように TAB 譜付きでした。私には幸いにしてピアノの経験が 10 年程あったので最初から TAB 譜に頼る事無く練習に取り組む事が出来ましたが、ベース自体が初めて触れる楽器だという人なら最初からフレットと弦が指定してある TAB 譜に飛びつきたくなくても無理はないかもしれません。確かに TAB 譜を使えば初心者でも自分の押さえるべき場所をすぐに見つけられますが、五線に対する TAB 譜の利点といえばその一点のみに尽き、あとは長い目で見るとほぼ欠点しかないのです。TAB 譜には音名や調といった音楽に於ける最も重要な概念が欠落していますし、様々なフレーズに対して何通りもあるはずの運指をただ一つだけに限定してしまいます。勿論他の楽器のプレイヤーとの意思の疎通も出来ませんし、そして何と言っても私達プロ・ミュージシャンの間で TAB 譜がやり取りされる事はまずありません。無論「楽器を始めたら誰もがプロを目指すべき」と言うつもりはありませんが、高度な技術やリズム感に加え、譜面を見て瞬時に音楽全体を理解する事を求められるプロの世界で TAB 譜が全く使われていないという事は、結局ベースという楽器を長くやって行く上での TAB 譜の必要性がほぼゼロに近い事を表していると思います。

それでは何故市販のバンドスコアや教則本にはもれなく TAB 譜が付いているのでしょうか？ 私もかねてから疑問に思っていたのですが、それは 2008 年に自分が初めて教則本を著した時によりやく判明しました。私は上記のような価値観から当然「TAB 譜は出来れば付けたくない」と提案したのですが、出版社の担当さんからは即座に「TAB 譜は絶対に必要です」と言われてしまいました。理由は単純明快で、「TAB 譜が無いと売れないから」というものでした。

もしそれが真実であるとする、その遠因はやはり音楽をやった事のない多くの人のため「五線の読み方と指板の地図を覚えるのは面倒くさそう」とい

う先入観があるからだと思います。確かにそれは1日でいきなり網羅できるものではありませんが、学習という意味では小中学生でも十分理解できるレベルですし、第一ベースやギター以外の楽器では当然ながらTAB譜などというものはなく誰もが五線の読み方と自分の楽器の運指から覚えるものです。たかだかその程度の手間を厭うばかりに最初からTAB譜に頼ってしまうと、いずれ高度な内容に立ち向かう際に必ず困る事になり、そして一度TAB譜にどっぷり慣れてしまうと、そこから五線に乗り換えようとするのは存外に大変なものです。私は10年以上音楽教室でベースを教えてきた経験で、その事をいやという程判っているつもりです。

この「eBASS 塾」は、本当の意味で「ベースが弾ける」ようになりたい人達に贈るベース講座です。具体的には、「ただ既存のバンドのコピーをする」「音楽をベースと自分との世界だけで帰結する」のではなく、きちんと楽譜やコードが読め、音楽全体を理解し、共演者の音を聴き、アンサンブルが求めるフレーズやグルーブを自分でアウトプットできるようになるための内容になっています。殊にグルーブに関してはベーシストやドラマーといった人種はそのパートの属性から当然それぞれに強いこだわりを持つものですが、その多くは様々な先入観や思い込み、好き嫌いなどから独善的なものになりがちであり、それはプロ・ミュージシャンであっても例外ではありません。この講座では「これをこうすればグルーブする」といった短絡的・画一的なものでは無く、幾つかの技術的な側面からグルーブに寄与する要素を提案しており、それらを実現させるために「最低限こんな練習は必要でしょ」といった解説をその都度出しています。多くの方にとって基礎的な練習とグルーヴィーなプレイというものがすぐには結びつかないかもしれませんが、動画という媒体の強みによってその説得力はどなたにもすぐ伝わるはずと自負しております。

2008年に上梓した私の教則本は中・上級者向けのものとしては満足のいく内容となりましたが、同時に「いずれは『全くの音楽初心者がTAB譜に頼らずに五線とコードを読めるようになり、最終的にプロベーシストのレベルまで上達できる』ような教則本を書きたい」とも思うようになりました。しかし内容的・分量的に音楽出版社にはとても賛同してもらえそうにありませんし、暇を見て少しずつコツコツ書き溜めて自費でも出版しようかな…等とも思っていたの

ですが、今年のある出来事をきっかけにこのような画期的なフォーマットでベース講座を開講しないかと誘って頂ける幸運に出会う事が出来ました。以来私の私生活では自分の時間が圧倒的に少なくなりましたが(笑)、それでも動画の撮影は原稿の執筆に比べると内容に比して格段に負担が少なく、受け手にとってもサウンドやグルーブといったテーマに就いての判りやすさでは書籍の比では無いことは明白です。何よりも「フルカリキュラムの良いベース教材を作りたい」といった自分の望みがこんなに早く叶ったという事は僥倖という他なく、この講座を全く的内容的な介入無しに実現させて下さったキバン・インターナショナルの木済さんには心からの感謝を捧げたいです。

2014年10月の時点ではようやく初級編の動画が揃ったばかりですが、この先中級・上級・エキストラ編も順次アップロードしていく予定であり、その内容も全て確定しています。そこから先も折々に様々なテーマで動画をアップいき、そこまでの私のベース人生で培った技術、考察、環境など余すところなく伝えていく所存です。ひょっとすると、この講座は演奏活動と共に私のライフワークになっていくのかもしれませんが。

この25年間体裁にはほぼ変化の無かったバンドスコア等の出版物とは裏腹に、世界に於けるエレクトリック・ベースの奏法や楽器自体の進化は目覚ましいものがあり、そろそろこの楽器もバンドスコアによる「中高生が見よう見まねでやる楽器」という扱われ方を脱却し、きちんと音楽そのものを学びながら技術を得られるような教材が主流になるよう我々専門家が導いていかなければならないと思います。そして、クラシック音楽にない軽音楽特有の概念(コード・ネームやインプロヴィゼーションなど)、更にベースという楽器に求められる特有の資質等、ベーシストに必要な実践的要素を全くの初心者編からプロユースにまで渡って網羅した教材が一つくらいあってもいいのではないのでしょうか。このeBASS塾が、その先鞭を付ける存在に必ず成長するであろう事を、ここに皆様にお約束してご挨拶に代えさせて頂きたいと思います。

2014年10月11日

箭島裕治